

来週の市場とレート予想

上田八木短資株式会社

	6/20(月)	6/21(火)	6/22(水)	6/23(木)	6/24(金)
無担保O/N			△0.086%	~ 0.000%	
銀行券	△ 200	ト ン	△ 1,000	△ 2,000	△ 2,000
財政他	+ 44,500	△ 3,000	ト ン	△ 5,000	+ 2,000
資金需給	余 44,300	不 3,000	不 1,000	不 7,000	ト ン
主な要因	国庫短期証券発行・償還(3M・1Y) 国債発行(5年・10年・30年) 国債償還(2年・5年・10年・変動15年)				
オペ期日	共通担保(全店) △ 3,400 CP等買入 △ 400 社債等買入 △ 1,300 国債補完供給 + 400 貸出増加支援 △ 57,900				被災地支援 △ 500
オペスタート	共通担保(全店) + 4,200 CP等買入 + 4,500 貸出増加支援 + 68,700	短国買入 + 17,500			
(日本)	黒田日銀総裁講演(慶大三田キャンパス) 貿易収支(5月) 百貨店売上高(全国・東京地区5月) コンビニエンスストア売上高(5月)	日銀、議事要旨(4月27、28日の金融政策決定会合分) 全産業活動指数(4月)	工作機械受注(5月確報)	木内日銀審議委員、講演	日銀、「主な意見」(6月15、16日金融政策決定会合分) 中曽日銀副総裁が全国信用金庫大会であいさつ
(海外)	欧 ドラギ ECB総裁、欧州議会で発言 欧 EU外相理事会	米 イエレンFRB議長、上院証言 英 イングランド銀行(英中銀)臨時ホバ	米 イエレンFRB議長、下院証言 米 ハウエルFRB理事講演 米 FHFA住宅価格指数(4月) 米 中古住宅販売件数(5月) 欧 ユーロ圏消費者信頼感指数(6月、速報値)	米 新規失業保険申請件数(18日終了週) 米 景気先行指標総合指数(5月) 米 FRB、ストレステストの結果発表 英 EU残留・離脱を問う国民投票	米 製造業受注(5月) 米 ミシガン大学消費者マインド指数(6月確定値) 独 Ifo景況感指数(6月)

【インターバンク市場】

<インターバンク>

無担保タム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.06 ~ 0.000
SPOT 2M	△0.06 ~ 0.001
SPOT 3M	△0.06 ~ 0.001
SPOT 6M	△0.07 ~ 0.001

日銀当座預金残高は週初28兆5000億円台から始まり、国債買入・短国買入オペや年金定時払い等を要因に増加し、29兆9,100億円となった。無担保コールON物の加重平均金利は、積み最終日となる15日まで地銀を中心に調達意欲が高く△0.053%~△0.05%、新積み期に入ると地銀勢の調達意欲が弱まり△0.057%となった。タム物は、1~2W物が△0.03~△0.01%で取引された。15・16日に開催された日銀金融政策決定会合では、金融政策の現状維持が決定された。16日には決定会合の現状維持を受けて1ドル104円台前半まで下落したことを要因に、日経平均株価は2月12日以来、約4か月ぶりの安値となり、終値は15,434.14円をつけた。また同日、新発10年物国債利回りは、一時△0.210%をつけ、過去最低水準を更新した。16日に公表された業態別の日銀当座預金残高によると、5月積み期の政策金利残高部分が20兆4,550億円と4月積み期対比で7,750億円減少した。来週の主な予定は、国内では黒田日銀総裁講演(20日)、海外では英国のEU残留・離脱を問う国民投票(23日)が挙げられる。

【オープン市場】

CP3M(a-1+)	0.000 ~ 0.005
TDB 3M	△0.250 ~ △0.200
現先(on/1w)	△0.100 ~ 0.000

<CP>

今週の入札発行額は約8,700億円で、期落ち額約6,200億円(金融機関・ABCP除く)を上回った。四半期末の有利子負債削減の動きから、6月末償還の大型案件が多く見られた。a-1格相当銘柄の3M物入札発行レートは、0.0010%割れで推移した。現先レートの中心は、-0.100%~0.000%程度で推移した。

<TDB>

15日に国庫短期証券3M第615回債の入札が行われたが、最高落札レートはそれぞれ△0.2517%(前回債△0.2505%)、平均落札レートは△0.2636%(同△0.2629%)と前回債と比べて利回りは若干低下した。セカンダリーは3Mで△0.255%近辺の地合いとなっている。6M、1Yは目立った出合は見られなかった。来週23日に3Mの入札が予定されている。

<レポ>

足許GCは先週末に引き続き△0.095%近辺の出合いから始まった。17日受渡しても同レベルで始まったが、T+2での資金調達を手控える動きも見られ、一部△0.13%レベルの出合いも見られた。翌日政策決定会合で金融政策の現状維持が決定。同日SNの20日受渡しは国債の大量発行のため、△0.05%近辺まで上昇した。週末には短国買入オペが1兆7,500億円オファーされたがレート低下は限定的で、△0.06%近辺での取引が多く見られた。SCは10年342回債が週を通してBIDが多く、週央には△0.50%を下回る水準での引合いも見られるなどタイト化した。2年363・364回債、5年123・125・127回債、10年329・330・336・338・340・341・342回債、20年153・154・155・156回債、30年48・49・50回債、40年8回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。